



三 愛 だ よ り



発行 原則毎月第 2 木曜日

事務局 三木市細川町増田 1204 番地 発行責任者：北村

ホームページ <http://mikisizen.gl.xrea.com>

紅を一切忘れ白山茶花/伊丹三樹彦

11月8日、2025年度第2回理事会を開催しました

理事会に先立ち活動推進連絡会を開催し、10月の事業と11月・12月の事業計画について報告があった。市環境政策課から令和8年度の三愛研への助成金は、現在の5万円を0とする代わりに公園委託料を現在の6万円から10万円にしたいと説明があったこと、11月3日のふるさとまつりの収支については、一般参加者の減少、公園のサツマイモの不作や諸物価高騰により、約3万円の赤字であったことなどの報告、11月13日に予定していた三愛だよりの印刷と発送作業については、16日のボランティアフェスタの準備の都合で、市民活動センターの部屋が使えないことなどから19日に変更することになった。

引き続き、理事会が開催され、出席者12名と委任状提出1名により会議の成立を確認。定款により、理事長を議長に選出し、議事録署名人2名を選出した。

2025年度上半期事業報告では、8月2日の親子川ガキ教室は、熱中症警戒アラートの厳重警戒あるいは危険の発表が予想されたため中止にしたこと。外来生物のアカミミガメの駆除に関して火葬場で1匹あたり4000円の手数料を必要としているが、アライグマなど農作物の獣害は手数料が免除されていることとバランスがとれていないので、市環境政策課へ検討が要望されていると報告があった。

また、2025年度上半期決算報告では、会費は20名の未納があることや上半期事業実施の結果約14万5千円の赤字であると報告があった。

また、夏季のイベントについては、近年の酷暑による参加者や会員の健康への影響を考慮し、「親子川がき教室」については、2026年度は中止とし、一年をかけて開催時期や内容を根本的に検討することを決めた。さらに、ふるさと公園の管理作業も従事する会員が高齢化している現状から、一日で予定個所のすべてを行うのではなく、予備日を設けて健康面での負担が少ないように実施することが決まった。さらに、新規会員の募集については、SNSなどを通じて広く行うこと、中学校の部活動の地域移行に伴う受け入れ団体の登録を検討すること、2027(R9)年度の30周年記念事業については、2026年度総会で予定事業と特別会計の予算額を提案し、事業を進めることを確認した。

豊かな動植物里山に戯れる

豊かな自然に囲まれ、草木のワークショップや観察会を楽しむ「里山まつり」が3日、三木市細川町増田の増田ふるさと公園であった。ススキが風に揺れる中、地元の見習い環境学習の発表会を行い、参加した約100人の市民らは自然との関わり方について考えていた。

元々は農地やため池、雑木林が広がる里山だったが2001年、市と増田地区や地権者の協力で約0.7haを公園として整備。NPO法人三木自然愛好研究会が管理し、大小の池や水路、散策道などがある園内では、ミストラノオやセトウチサンショウウオなど希少な動植物も生息する。

増田地区と同会は毎年11月に里山まつりを開催。今年と同公園で春から生き物の様子を観察してきた豊地小3年生の9人が登場し、秋の七草やトンボなどの写真を示し、公園の魅力をイラストを交えて紹介した。会場ではおでんやしほなどが販売されたほか、散策観察会ではセンブリの葉をかんで苦みを味わうなど、参加者は深まる秋を満喫した。同研究会の北村健理事長は「天気も長く秋の里山を楽しんでもらえた」と話していた。

(大山伸一郎)

豊かな自然を観察する参加者
三木市細川町増田

【令和7年11月6日神戸新聞三木版】

11 月下旬～12 月中旬の事業報告

- 11 月 22 日(土) 豊池小学校環境体験学習発表会出席 会員 3 名
- 11 月 24 日(月) 三役会議
- 12 月 2 日(火) 三木防災公園遊歩道整備作業参加 会員 2 名
- 12 月 4 日(木) 活動推進連絡会 19:00 市民活動センター 13 名
- 12 月 7 日(日) 初冬の公園かんさつ&山野草(ササユリなど)の種まき 10:00-12:00 会員 11 名
- 12 月 10 日(水) 三愛だより発送作業 14:00 市民活動センター

令和 7 年 11 月 14 日発表 兵庫県立人と自然の博物館、昭和医科大学、千葉大学の共同プレスリリースより抜粋 研究の背景

ウラボシ科ノキシノブ属 (Lepisorus)は東アジアから東南アジアにかけて広く分布する着生のシダ植物で、世界に 90 種ほど存在することが知られています。このグループは形態的特徴に乏しく、正確に種を特定するには微小な形質の観察が必要なため、種の認識が非常に難しいシダの一つです。

ノキシノブ属の中でノキシノブは日本全土で最もよく見られるシダ植物の一つであり、百人一首100番「百敷(ももしき)や古き軒端(のきば)のしのぶにもなほあまりある昔なりけり」で詠まれる「しのぶ」もノキシノブを指すと言われています。このようにノキシノブは普通種であり、長い間認識されてきたにも関わらず、形態や倍数性*1に大きな変異があり、分類が困難な倍数性複合体*2であることが知られていました。Fujiwara et al. (2018)の研究により、ノキシノブ倍数性複合体には狭義のノキシノブに加え、ノキシノブとツクシノキシノブの交雑によって生じたフジノキシノブ、ノキシノブとナガオノキシノブの交雑によって生じたクロノキシノブ、さらにクロノキシノブとツクシノキシノブの交雑によって生じたミカワノキシノブが含まれることが明らかになっています。

こうした中、植物研究者であり、本研究の共同著者でもある岡武利氏と丸岡道行氏は、2020 年に兵庫県での植物調査中、形態的に既知種と異なるノキシノブ属の未知種を発見しました。昭和医科大学の藤原講師は、本種が未記載種である可能性が高いと判断し、その実体を明らかにするために、現地調査と遺伝解析を実施しました。

令和7年11月25日
神戸新聞但馬版

先月号3頁で速報としてお知らせをした「タジマノキシノブ」について神戸新聞に掲載されました。11月26日から12月26日まで養父市は、公民館など4か所で展示と観察会を実施されます。

百人一首にも詠まれるシダ植物で、日本に広く分布するノキシノブ類の新種が、養父市内で発見された。県立人と自然の博物館(三田市)などの共同研究チームが、発見地にちなんで「タジマノキシノブ」と命名し、学名にも「レピソーラス・タジマエンシス」と但馬を冠した。養父市は展示と観察会を26日から公民館や地域局などで実施する。(吉田みなみ)

ひとはずなどの共同研究チーム



発見されたタジマノキシノブ(養父市提供)

ノキシノブ類は、民家周
辺の樹木や石垣などにみ
られる。百人一首の「百
敷」や古き軒端の「しの
ぶ」にも「しのぶ」は、
新先に生えたノキシノブ
を指すとされる。品種に
よって形や色が大きく変
異するという。
タジマノキシノブは、
2020年、
あすから展示・観察会 公民館など

新種シダ植物養父で発見

「タジマノキシノブ」地名から命名

植物研究者らが養父市内で発見された大型のノキシノブ類を発見し、遺伝解析や形態比較などで新種と判明した。
大きいもので高さ約20cm、幅が広くねじれていることが多い。養父市のほか朝来市や京都府、福井県に生息している。
またタジマノキシノブは、近くに自生するクロノキシノブと、特定第一種国内希少野生動物植物の一つ「ウロコノキシノブ」の交雑で生まれた日本固有の新種と分かった。ウロコノキシノブは長野県の限定地域にしか確認されておらず、タジマノの研究が進めば、日本の植物分布の変遷解明につながることも期待される。
人と自然の博物館の鈴木武研究員(右)は、身近な植物の場合、気付かずに除去されて消滅するリスクがあるとする。「但馬地域にあって重要な植物で、分布調査や自生地の保護を進めたい。近くでタジマノを見つけたら、写真を撮るなどして情報を蓄えてほしい」と呼びかけている。
養父市は、公民館や地域局などでタジマノの実物と解説パネルを展示する。12月3日までは養父公民館、同5、14日はやぶ市民交流広場、同15、20日は大屋地域局、同21、26日は関宮地域局で実施する。
同6日午後2時から、タジマノの説明会と観察会を同広場で開き、鈴木研究員が特徴を解説し、自生地に移動して実物を観察する。参加申し込み不要、参加無料。市は「地元で発見された植物の理解を深めてほしい」としている。
タジマノの情報提供は、県立人と自然の博物館079・5559・2001

今回の発見に関わられた丸岡会員が、おもだか令和4年度通巻 26 号に「三木市内に生育するノキシノブについて」を掲載されています。

12月中旬～令和8年1月 事業活動予定表

日	曜日	内容等	日	曜日	内容等	
12月		 <p>ヤブムラサキ 11月29日</p>	5	月		
11	木		6	火		
12	金		7	水		
13	土		8	木		
14	日		9	金	活動推進連絡会 19:00	
15	月		10	土		
16	火		11	日		
17	水		12	月	-成人の日-	
18	木		-市民活動センター休館日-	13	火	
19	金			14	水	三愛だより発送作業 14:00 市民活動センター
20	土	ふるさと公園草刈り① 9:00	15	木	-市民活動センター休館日-	
21	日	ふるさと公園草刈り②&ヤブレガサモドキ自生地草刈り 9:00	16	金		
22	月		17	土		
23	火		18	日		
24	水	 <p>ヒメツチハンミョウ 11月23日、塩田会員撮影</p>	19	月		
25	木		三役会議	20	火	ヤブレガサモドキ移植地草刈り
26	金			21	水	豊地小学校環境学習支援
27	土			22	木	
28	日			23	金	
29	月			24	土	
30	火			25	日	ふるさと公園畔焼き
31	水			26	月	1/25に新年会を予定しています。 詳細は1月号でお知らせします。 皆様のご参加をお待ちしています。
1月				27	火	
1	木		-元日-	28	水	
2	金		29	木	三役会議	
3	土		30	金		
4	日		31	土		

掲示板

☆☆☆ 機関誌「おもだか」の原稿を募集中 ☆☆☆

締切:2026年3月8日(日) 内容:自由(研究、体験談、旅行記など)

字数:自由(できるだけA4、6枚以内) 手書き、パソコンで作成のどちらでも結構ですが、編集は次の要領で行います。様式:A4、縦長で横書き、ページ設定は36行、1行=35文字、フォントはMS明朝、文字サイズは12pt。一行目に16ptサイズで「題名」、2行目は空ける、3行目に右詰めで執筆者名を記載し、4行目から本文を始める。そのほか詳細は編集委員の池田裕子さんまで。

ふるさと公園
だより

12 月 7 日、初冬の公園かんさつ&山野草(ササユリなど)の種まきを開催しました

時間前に集まった会員は、先ず畑を囲っていたウサギ対策のネットとサツマイモ用マルチシートを撤去しました。開会時間を過ぎても一般参加者はなく会員のみ。かんさつ会は省略して、山野草の種まきを行いました。昨年まいたササユリの種が米粒よりも小さな球根に育っており、それをポットに移植。また今年の種をビニール袋に園芸用土と共に入れ、水分を加え口を閉じ来年用に。そのほか、試験的にカザグルマ、タヌキマメ、キキョウの種もポットに植えました。

ポットとビニール袋のササユリは会員が持ち帰り、来年のこの時期に持って来れるように管理します。そこから花が咲くまでには、まだまだ年数がかかるようです。

